

経営理念

当社は健全な経営を行う企業として、以下の経営理念を掲げて事業を遂行しています。

世のため 人のため 地球のため 社員のため
持続可能な社会を創造します

FULUHASHI Spirits

世の中にとって必要か？ 正しいか？ 環境にやさしいか？

－自ら未来を創造する－

1. 新しい可能性にチャレンジし、持続可能な社会を実現します。
2. お客様の立場に立って考え、ニーズに応えます。
3. プラス発想と行動力で付加価値を高めます。
4. 知性・技術・感性を育て、使命感を持って仕事に取組みます。
5. 豊かなところでユーモアを忘れず仕事を乐します。

FULUHASHI EPO REPORT 2026を通して 私たちがお伝えしたいこと

フルハシEPOグループは、資源の循環を軸とした事業を通じて、

環境課題の解決と持続的な成長の両立を目指しています。

2026年版のレポートでは、これまでの取組みや実績を紹介することに加えて、

「当社グループはどのような姿を目指しているのか」「そのために何を実行しているのか」

「現在どこまで進んでいるのか」を一つのストーリーとして再構成しました。

資源循環というビジネスモデルを基盤に、拠点展開による量的拡大を進めることで、

当社グループはさらなる成長を目指しています。

これからも本報告書を通じて当社グループの現在と目指す姿をより深くご理解いただけるよう、
内容改善に努めてまいります。

見どころ
1

TOP MESSAGE

▶ P.3

資源循環の担い手として成長を続けるフルハシEPO。TOP MESSAGEでは、中長期的な企業価値向上に向けた成長戦略や積極投資の考え方、中期経営計画の進捗、そして持続的な成長への思いをトップの視点から語ります。

見どころ
2

〈特集1〉

成長戦略「量的拡大」の 現在地とこれから

▶ P.15

〈特集1〉では当社グループの工場を取り上げ、各工場の役割や生産可能量等を紹介します。写真や紹介文を通じて、成長戦略の進捗をご確認いただけます。

見どころ
3

社外取締役メッセージ

▶ P.34

2025年度に監査等委員会設置会社へ移行した当社。社外取締役監査等委員会委員長の視点から、社外取締役に期待される役割や、企業価値向上を支えるガバナンスについてお伝えします。

Contents

■ Introduction

- 01 経営理念
- 03 TOP MESSAGE
- 07 What's FULUHASHI?

■ 価値創造ストーリー

- 09 価値創造プロセス
- 11 ビジネスの強みと独自性

■ 成長戦略・ビジネスモデル

- 13 中期経営計画
- 15 〈特集1〉
成長戦略「量的拡大」の現在地とこれから
- 17 財務・資本戦略
- 19 セグメント別営業概況
- 22 〈特集2〉
環境価値を社会に広げる知の拠点
－フルハシ環境総合研究所 25年の歩み－

■ サステナビリティ

- 23 サステナビリティへの取組み
- 24 マテリアリティ
- 25 環境
- 28 社会
- 31 ガバナンス
- 34 社外取締役メッセージ
- 35 役員一覧

■ 財務・非財務データ・会社情報

- 37 財務・非財務データ
- 38 会社概要・株式情報

■ 参考ガイドライン

環境報告ガイドライン2018年版、価値協創ガイダンス

■ 報告対象範囲

フルハシEPOグループ（一部単体）

■ 報告対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日
※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

■ 発行月

2026年8月

■ 免責事項

本報告書には、当社の過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画等も記載しています。これらは記述した時点での情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれます。したがって、将来の事業活動の結果や将来に生じる事象が本報告書に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなるおそれがあります。読者の皆様には、以上をご承知くださいますようお願い申し上げます。

TOP MESSAGE

トップメッセージ

いま、フルハシEPOは どのようなステージにあるのか

2025年度において、当社グループは売上高100億円を突破し、売上高・営業利益ともに6期連続過去最高を更新しました。木質再資源化に対する社会的ニーズの高まりに加え、これまで進めてきた事業基盤強化の成果が着実に表れてきているものと認識しています。

2022年の上場時、当社はすでに設立74年を迎えており、木質再資源化におけるリーディングカンパニーとしての自負を持つ一方で、私自身は「当社はベンチャー企業である」という意識も強く持っていました。その背景には、国内に存在する木質資源が持つ可能性は、まだ十分に広がりきっていないという思いがあったためです。

上場以降、当社グループでは拠点展開をはじめ設備投資を積極的に進めてきました。2025年9月には、名古屋CEセンターが新たに稼働し、2024年10月に開設した愛知第八工場（一宮）も順調に稼働を続けています。さらに、今年度は名古屋鳴海CEパークも稼働します。

現在の当社グループは、中長期的な成長に向けて事業基盤を構築していく段階にあります。拠点開発や設備投資を積極的に進めている背景には、今後さらに高まる木質再資源化へのニーズを見据え、中長期的な事業基盤を先行して構築していきたいという考えがあります。

木質再資源化は、地域との信頼関係や安定的な原料調達、営業基盤、許認可対応等、多面的な事業基盤の上に成り立っています。そのため、拠点開発においても、中長期的な視点で着実に基盤を構築していくことが重要だと考えています。

中長期的な視点で
着実に基盤を構築していくことが
重要だと考えています。

代表取締役社長
山口 直彦

培ってきた経験と知識を力に、
全社一丸で木質再資源化の可能性を、
着実に広げていきます。

木質循環の担い手としての事業展開と社会的役割

近年、木質再資源化を取り巻く社会環境は大きく変化しています。カーボンニュートラルへの対応に加え、循環型社会の実現に向けた機運の高まりや、エネルギー安全保障の重要性が増す中、国内の資源を循環利用する意義はこれまで以上に大きくなっています。

当社グループにおける木質バイオマス取扱量は年間約60万tとなり、当社グループが果たすべき役割も拡大しています。私たちは、木質廃棄物を原料やエネルギーとして循環させる、木質再資源化の担い手であり続けたいと考えています。

日本国内に存在する木質資源は、数少ない循環可能な国産資源の一つです。これらを適切に回収・再資源化し、エネルギーや原料として再び社会へ循環させることは、カーボンニュートラルだけでなく、地域循環経済や持続可能な社会基盤づくりにもつながると考えています。

また、通常の木質廃棄物の適正回収・再資源化業務に加え、2025年6月までは、能登半島地震に伴う災害廃棄物の受け入れにも対応しました。これは単なる災害支援にとどまらず、当社グループの拠点ネットワークが、循環型資源活用の基盤として社会的役割を果たしていることを示す象徴的な事例であったと考えています。今後、社会における木質再資源化の重要性は、さらに高まっていくでしょう。

中期経営計画見直しを どのように捉えているか

2026年5月、当社グループは中期経営計画の見直しを公表しました。これは、事業環境の変化に合わせ計画を再設計し、持続的に成長できる体制の整備を優先する判断をしたものです。(▶P.13)

現在、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しています。建設費や物流費及び人件費の上昇に加え、許認可取得の長期化等、拠点開発を進めるうえでも従来以上に時間とコストを要する状況となっています。一方で、木質再資源化に対する社会的ニーズそのものは、拡大傾向にあります。中長期的に社会から必要とされる企業であり続けるために、現実的かつ持続可能な形へ中期経営計画を再設計しました。

木質再資源化は、一朝一夕で成立するものではありません。だからこそ私たちは、持続的に成長できる事業展開を重視しています。

見直し後の中期経営計画においても、当社グループが目指す方向性は揺るぎません。許認可の取得プロセスを徹底的に効率化し、これまでに培った経験と知識を最大限に活用することで、木質再資源化の可能性を従来以上に迅速に広げていきます。社会から必要とされる企業を単に「実現」するのではなく、全社一丸となった不断の努力によって着実に成果を積み重ねてまいります。

フルハシEPOの安定供給を支える 拠点網

私たちは、単なる「木質再資源化」に取り組む企業ではないと考えています。「建設現場や物流現場等から発生する木質廃棄物の処理を受託し、再資源化し、再びエネルギーや原料として社会へ循環させていく。さらに、その循環を継続的に支えるための拠点ネットワークを構築していく。」私は、当社グループの事業は、「廃棄物」と「エネルギー」を接続する木質再資源化インフラそのものだと考えています。

近年、木質バイオマス発電の需要拡大やサーキュラーエコノミーへの移行等を背景に、木質資源の社会的価値はさらに高まっています。その中で重要になるのは、単に木材チップを製造することではなく、地域に



拠点ネットワークと木質資源の安定供給体制を活かし、 当社ではバイオマスボイラの導入提案という 新たな活用領域にもチャレンジしています。

合わせた拠点展開により必要な場所へ安定的に供給できる体制をいかに構築できるか、ということです。当社グループでは、長年にわたり中日本エリア・東日本エリアで拠点ネットワークを拡大してきました。その拠点数は、グループ全体で22ヶ所となり、木質廃棄物の発生現場に近く、お客様の目線に立った拠点展開が当社グループの強みの一つにもなっています。この拠点ネットワークと木質資源の安定供給体制を活かし、当社ではバイオマスボイラの導入提案という新たな活用領域にもチャレンジしています。(▶P.19)

ステークホルダーの皆様へ

私たちが目指しているのは、木質再資源化を通じて、より豊かな社会づくりに貢献することです。豊かな

社会とは、経済的な成長だけでなく、限りある資源を大切に使い、次の世代に持続可能な環境を引き継いでいける社会であると考えています。その実現に向けて、当社グループはこれからも木質資源の可能性を追求し、社会から必要とされる事業基盤を着実に築いてまいります。

私たちの挑戦は、当社グループだけで成し遂げられるものではありません。お客様、お取引先様、地域社会の方々、株主・投資家の皆様、そして従業員一人ひとりとともに歩みを進めていくことで、初めて実現できるものだと考えています。

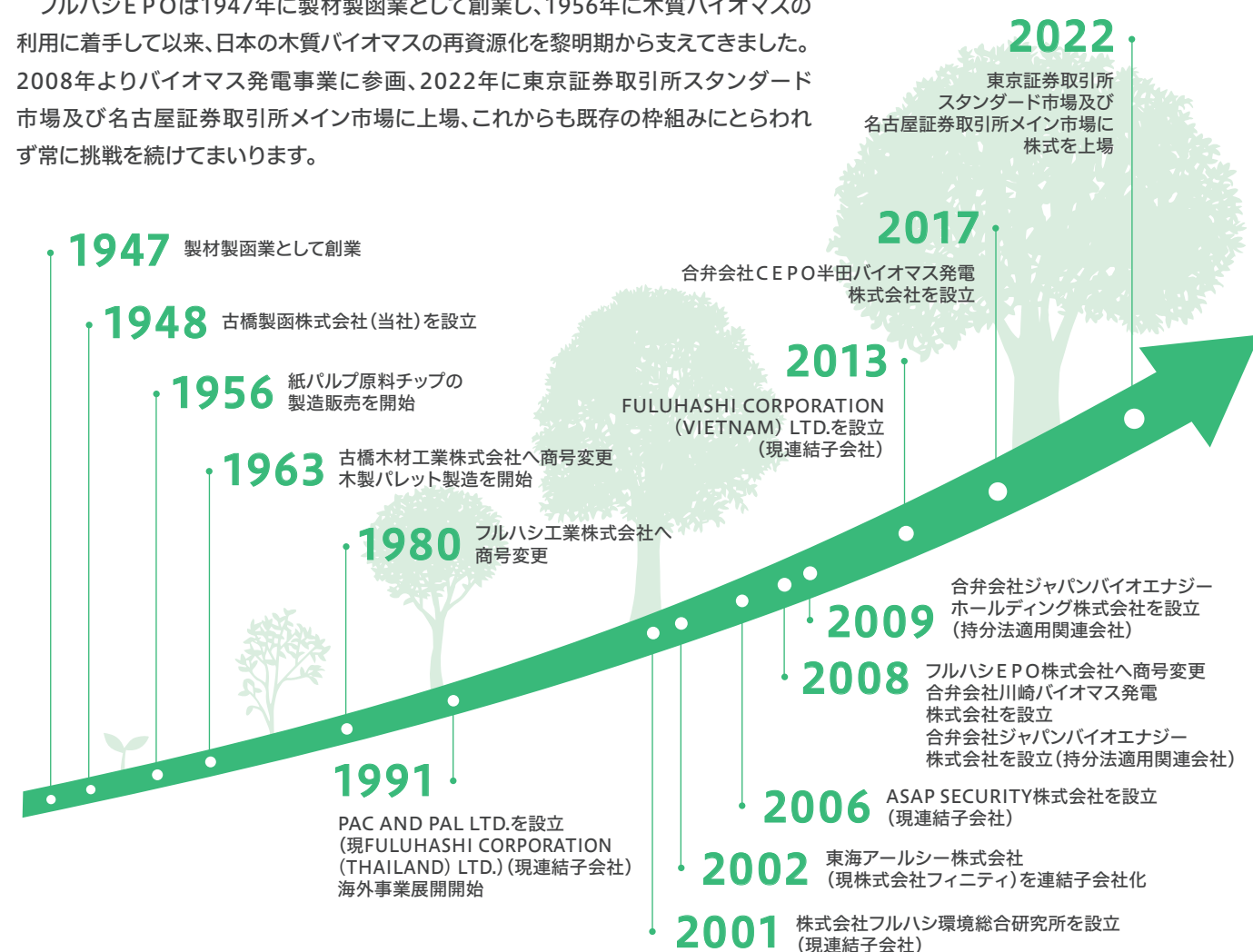
これからも、フルハシEPOグループの挑戦にご期待いただくとともに、持続可能で豊かな未来をともにつくっていくパートナーとして、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

What's FULUHASHI?

フルハシEPOグループは、木質資源の再資源化を基盤に、事業拡大と企業価値の向上を図ってきました。グループ全体で、バイオマテリアル事業、資源循環事業の2つの事業を柱に総合的な環境ソリューションを展開し、地球環境と社会の持続的な発展に貢献しています。

フルハシEPOグループの歩み

フルハシEPOは1947年に製材製函業として創業し、1956年に木質バイオマスの利用に着手して以来、日本の木質バイオマスの再資源化を黎明期から支えてきました。2008年よりバイオマス発電事業に参画、2022年に東京証券取引所スタンダード市場及び名古屋証券取引所メイン市場に上場、これからも既存の枠組みにとらわれず常に挑戦を続けてまいります。



川崎バイオマス発電所

当社が住友共同電力株式会社及び住友林業株式会社と合併で設立した「川崎バイオマス発電株式会社」は、2011年2月に運転を開始しました。

川崎バイオマス発電所は、関東一帯から収集した木材チップを燃料として、環境にやさしい電気を供給しています。発電出力は約3万3千kW(発電端)で、年間で一般家庭の約3万8千世帯分を発電し、CO₂排出削減量は年間約12万tと環境負荷低減に貢献しています。



CEPO半田バイオマス発電所

当社は2017年4月に総合エネルギーサービスを行う株式会社シーエナジーと、特別目的会社「CEPO半田バイオマス発電株式会社」を設立し、2019年10月に営業運転を開始しました。

CEPO半田バイオマス発電所は、木質廃棄物を由来とした木材チップとPKSを燃料とする出力約5万kW(発電端)の木質バイオマス発電所です。年間発電量は、一般家庭の約12万世帯分で、CO₂排出削減量は年間約15万tと環境負荷低減に貢献しています。



事業ポートフォリオ

物流機器製造販売、 グループ会社

(警備請負・人材派遣、
環境コンサルティング)

10.3%

環境物流事業では、木質パレット等の物流機器の製造・販売を行うとともに、不要となった物流機器の買い取りや中古品のリユース・リメイク等、物流資材の循環利用を支援しています。併せて、環境・ESG分野のコンサルティング会社や警備・人材サービス会社等を通じて、多様なサービスを展開しています。

2025年度	売上高	13億14百万円
	営業利益	35百万円

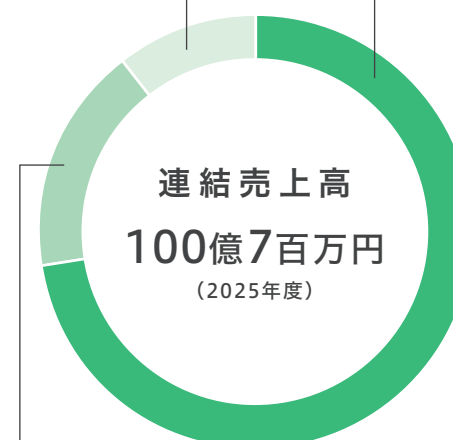
(注)各セグメントの外部顧客への売上高を連結売上高で除して売上高割合を計算しています。

バイオマテリアル事業

72.7%

建築解体材や使用済み木質パレット等の木質廃棄物を回収・再資源化し、紙パルプや木質繊維板の原料、バイオマス発電の燃料等として販売しています。木質廃棄物の処理受託(木材チップの原材料の入荷)時の処理売上と、木材チップの販売売上が得られるダブルインカムビジネスモデルが強みの一つです。

2025年度	売上高	73億36百万円
	営業利益	10億57百万円



資源循環事業 17.0%

建設現場で発生する木くずや廃プラスチック、金属くず等の建設副産物を回収し、選別・再資源化を行っています。現場分別と自社工場での選別処理により資源化率を高め、木質廃棄物はバイオマテリアル事業の工場で再資源化するほか、各種資源の循環利用につなげています。

2025年度	売上高	16億99百万円
	営業利益	89百万円

数字で見るフルハシ(2026年3月31日現在)

